

第1章 小売・仲介、代行

音楽

世界に先駆けSMEがビジネスに参入
2003年には1000億円市場に

2000年は「音楽配信元年」

音楽配信は従来からストリーミングやMIDIデータにより行われていたが、MP3の登場によってビジネス的にも無視できない存在となった。違法コピーの氾濫という弊害を引き起こす一方、ようやくインターネット上でCDクオリティの音楽を流通させることを可能にしたからである。これを受け、1999年7月には、大手レコード会社を中心となり組織されたSDMI^{※1}により最初の携帯音楽プレーヤーに関する著作権保護仕様が策定され、大手家電メーカーを含むハードウェアメーカーの携帯プレーヤー市場への参入が加速した。また、単純な音楽圧縮形式であるMP3と比較して、著作権保護機能や課金システムなどを備えた総合的な配信システムができた。代表的なものでは米リキッドオーディオの「Liquid System」、米マイクロソフトの「Windows Media Technologies (WMT)」、米IBMの「Electronic Music Management System (EMMS)」などである。これら複数のシステムが混在し、技術的にもまだ発展途上にあるものの、レコード会社にとっては著作権保護面で安全に、かつ自前で配信システムを構築しなくても、音源を用意するだけで音楽配信ができる環境が整ったのである。

今年に入ってから米国内で大手レコード会社ワーナー・ミュージック・グループとEMIグループの合併や、BMGエンターテインメントとマイクロソフト、IBM、リキッドオーディオらとの提携が発表され、もはや実験段階は終わり、いよいよ将来の音楽配信事業を見据えた動きが本格化している。

市場は見込めるが現状は厳しい

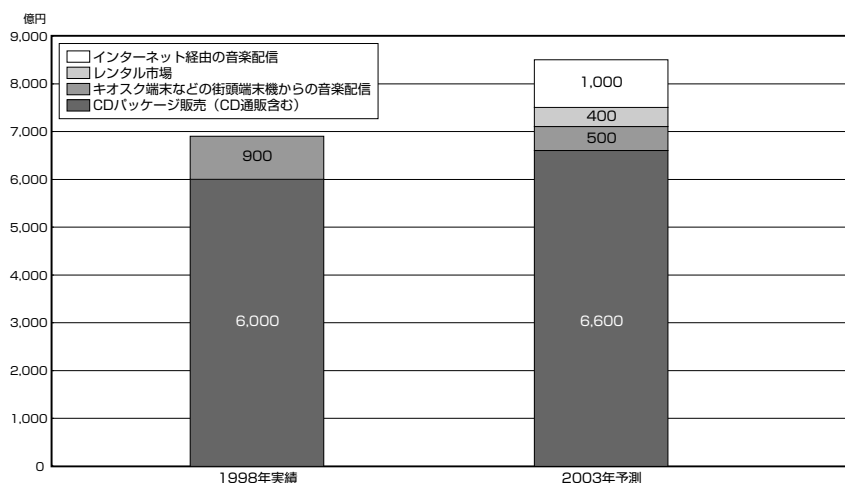
レコード会社ではないが、インディーズ系アーティストの音源を配信をする「mp3.com」^{※Jump01}、RIOを開発した米ダイヤモンド・マルチメディアの幹部が中心となって設立した「Riffage」^{※Jump02}などは人気を集めているし、多くの大手のインディーズ系レーベルと契約している「Emusic」^{※Jump03}では、著名アーティストの楽曲も多く有料で配信しており、2000年4月には、1998年のサービス開始以来、販売ファイル数が100万を超えた。また民間調査会社のシード・プランニングによると、国内のインターネット上の音楽配信ビジネスの市場は1998年のほぼ実績なしから、2003年には1000億円、キオスク端末などへの配信も含めた「ノンパッケージ音楽」全般では、2003年に1400億円の規模に達し、音楽パッケージ販売・レンタル市場の16.5%を占めると予測している。しかし、今のところ大手レコード会社は音楽配信への積極的な姿勢を見せているものの、実際にはかなり慎重だ。CDア

ルバムのプロモーションとして音楽配信を使っている場合が多い。また、高いアクセス・ダウンロード数を誇るmp3.comも、独自に作成するCDの売り上げが主な収入源となっており、音楽配信事業全体では今のところ「音楽のダウンロード販売による収益」だけでは事業が成り立っていないというのが現状だ。

国内の各レコード会社の動き

日本国内では、1999年12月20日に開始されたSMEの有料音楽配信サービス「bitmusic」^{※Jump04}が国内外の音楽関連産業に大きな衝撃を与えた。シングルの新譜をすべてCDと同時にオンラインでも配信し、2000年5月からは邦楽の旧譜、洋楽の配信も開始した。また、パッケージ制作費や流通コストなどを削減できるため、ノンパッケージは低価格で販売できると考えられるが、bitmusicでは、通常のCD1曲当たりの単価を参考に1曲350円という価格を設定した。Emusicやリキッドオーディオなどの海外の販売サイトでは、だいたい1曲1

資料2-1-25 国内の音楽コンテンツ販売・レンタル市場規模の推移



出所 「音楽配信最新継続レポートVOL.1」(シード・プランニング、1999年9月)を元に作成



図1 音楽産業に衝撃を与えた「bitmusic」

ドル程度。また1999年9月からMP3による販売を開始した「ミュージック・シーオー・ジェーピー」の場合は1曲250円である。メジャーのレコード会社であるSMEが打ち出した価格が今後の音楽配信にどのような影響を与えるかは予測できないが、2000年4月から配信サービスを開始したレコード会社「エイベックス」も、1曲の価格は350円と設定している（ただしエイベックスの場合は消費税がプラスされる）。

プロバイダーのソニーコミュニケーションネットワーク（So-net）が設立した音楽配信プラットフォームを提供する会社「レーベルゲート」も大きな注目を集めた。この会社には、SME、エイベックス、BMGファンハウス、キングレコード、ポニーキャニオンなど大手12社が出資しており、「レコード会社主導によるルール作り」を実現しようとしている。ここで配信される楽曲の価格は各参加レコード会社が独自に設定することになっているが、各社足並みを揃えて「業界標準」を用意することも十分に考えられる。

このほか国内での主な動きとしては、「イーズ・ミュージック」の「1曲100円」の価格設定や、日本音楽著作権協会（JASRAC）のデジタル著作管理構想「DAWN2001」^{注2}への対応がある。こちらでも位置付けとしては「音楽配信会社」であるが、配信する音楽コンテンツ（原盤）はレコード会社ではなく、原盤権を持つアーティスト本人や音楽事務所などを対象に直接交渉して集める。収益は広

告収入などによらず、ダウンロード販売による売り上げを主とするため、相当数の楽曲がダウンロードされる必要がある。同社に出資しているソフトバンクの関連会社（ヤフーなど）の協力により、プロモーション等である程度のバックアップは期待できるといえそうだが、売れるコンテンツをどれだけ揃えられるかがポイントになりそうだ。

また、東芝や三洋電機などがリキッドオーディオ対応の携帯音楽プレーヤーを発表したほか、レコード会社の東芝EMIがリキッドオーディオのシステムを利用した試聴サービスを3月に実施し、2週間で2万5000ダウンロードを記録した。リキッドオーディオの日本法人であるリキッドオーディオ・ジャパンの音楽配信事業者としての働きによっては、2000年以降に大きな飛躍が期待される。

今後のカギ——携帯電話、マルチメディア端末、音楽ポータル

今後の音楽配信市場で有望視されているのは「非パソコン系」端末への配信である。現在インターネットで配信される音楽コンテンツはパソコンを経由することが前提となっており、大多数の一般音楽ユーザーにとってはハードルとなっている。そこで登場するのが携帯電話に向けた音楽配信である。圧倒的な普及率、操作の容易さ、そして、課金のしやすさなどの面で明らかなメリットがあり、すでにインターネット対応携帯電話「iモード」などが普及している日本においては、最も実現の可能性が高いサービス形態である。

2000年春には、NTTドコモ、ソニー、松下通信工業、米IBMらが、PHS 64kbps データ通信を使った音楽配信の実験を開始しており、実用段階へと一歩近づいている。また、非パソコンという意味では、コンビニ等に設置される「マルチメディア端末」への配信も注目されるところだ。リキッドオーディオやミュージック・シーオー・ジェーピーなどは、すでにマルチメディア端末へ向けた音楽配信を

視野に入れていることを明らかにしている。

ほかに注目される場所としては、「音楽ポータルサイト」が挙げられる。ちょうど、ウェブの普及がヤフーのようなナビゲーターとなるサービスを必要としたように、オンラインで配信される音楽が増加するにつれ、音楽用のポータルサイトが必要となる。つまり、ユーザーが聴きたい音楽をすぐ探せるサービスが求められるという訳だ。代表的なサイトとして「Listen.com」^{Jump05}、「Launch.com」^{Jump06}などがあるが、その2社とも日本企業との提携により2000年に国内でサービスを開始する。特にListen.comは、米国でBMGエンターテインメント、ソニー・ミュージック、ワーナー・ミュージック・グループなど大手レコード会社から出資を受けるなど非常に注目されており、音楽配信の本格化と同時に成長が見込まれるビジネススタイルである。

（沖山淳史 INTERNET Watch編集部）

注1 Secure Digital Music Initiative。デジタル音楽著作権保護を目的に1998年12月に設立されたフォーラム。米国大手レコード会社、IT関連企業、関連団体などが参加している。インターネット上の音楽配信の実現に向け、重要な役割を担う団体。SDMI内に組織された携帯音楽プレーヤーに関するワーキンググループが業界標準仕様の策定を進めており、1999年7月に最初の仕様を発表した。

注2 JASRACによる音楽著作権管理のデジタル化構想。2001年からの稼働を目指している。音楽著作物情報の統合データベースを構築し、業務をデジタル化する。またネットワーク上の音楽コンテンツについては、著作物情報と統合データベースを照合して著作物使用を把握する。違法コピーファイルの監視も行う。

Jump01 <http://www.mp3.com>

Jump02 <http://www.riffage.com>

Jump03 <http://www.emusic.com>

Jump04 <http://bit.sonymusic.co.jp>

Jump05 <http://www.listen.com>

Jump06 <http://www.launch.com>



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp